

今世に生きる神仏混淆の実態について、吾が居住地の「(宗法) 月山神社」境内(図-47)にある石碑から眺めて見る。列記とした宗教法人神社境内に仏教敬拝の対象となる石碑・石塔がある。以前は村社月山堂と称されたが、現在の正式名称は「宗教法人 月山神社——神社本庁の包括を受ける、祭神は『月読尊』(つくよみのみこと あるいは、つきよみのみこと)である。神道界の最大かつ最上位組織である神社本庁の指揮監督を受ける列記とした宗教法人だが、実態は神仏習合の聖地となっている。その状況は次のとおり。

簡素な神明式石鳥居——石は、山形市新山から南東方向5km上った入った深山幽谷の所、宮城・山形県境にある雁戸山の麓で採石したもの——で結界された境内に、石碑・石塔類(24体に整理、その内の石碑・石仏は14体)が安置(図-48)されている。鳥居の意義は、俗界と聖界(神界)の結界、つまり領域を明確化する縄張りの意味であるが、すると、この境内はまさしく清浄を大意とする神域である。ところが、その神域の内部には、仏の香りぶんぶんの石碑類——殆どが、神仏習合が当り前の江戸時代までの建立であることから当然と言えば当然の事——が並んでおり、中にはお地藏様のように仏そのものがある。以前は村内(当町内会)の道の辻・交差点付近にあったものを、道路改良・拡幅や芸工大前土地区画整理事業に支障となった事からここに集めたものである。したがって神社境内は今も神仏同座、神仏習合其の儘の姿なのである。ここに並べたのは、もちろん上桜田町内会の関係者の意思である。神と仏の分別を意識しない、その違いを超越する大和民族の真価の実相である。このような心模様を整理して見た。

- 日本人は古来より、天地万物・森羅万象を観ると、仏様の世界からは「山川草木悉皆成仏」の「十方諸仏」が宿り、神様の世界からは「天神地祇」の「八百万の神々」が宿っている、と捉えるが、それらの神々習合、仏々習合、神仏習合の縮図がここにあると言う事である。キリスト教やイスラム教の一神教世界の民族とはまったく異なる偉大な寛容精神を内包している証拠物の展示館である。日本全国に共通する姿でもある。
- 石碑類は、たかが石ではあるが、明治以降の富国強兵、国土開発、昭和の高度成長期(土地区画整理、道路の新設・改良・拡幅事業)でも廃棄されなかった、継承維持して来た、大切に守って来た事の素晴らしさを再認識出来る。ただ石に字を彫っただけではない。つまり、この石にはこの地の時々の人達の意味、地域の歴史、民族性・信仰心が詰まっている、そこに「天(神祇諸仏)・地(自然)・人(人間)」の三位一体が渾然融合していると捉える視点を持ちたいものである。
- このような石碑・石塔類は、たかが石ではあるが、ただの石ではない、意思・意志の詰まった石と捉える事が重要である。石の建立はすなわち、一つの神社あるいは寺院を造立したものと同等の営みである、縮小モデルであると理解している。
- この境内の石碑類は、子供達への教育、社会課野外学習・歴史学習の素材、大人達の交流の大いなる素材となる、人々の知恵比べの題材になる。
 - ①大きさ・重さは？ ②石の産地は、つまり、原石はどこにあったのか？ ③一つの石だったのか、どのように割ったのか？ ④どのようにして運んだのか、つまり、運搬経路(ルート)と運搬方法は？ ⑤建立年は何時で、運搬や建設(建柱)に何人くらい係ったのか？ ⑥どんな仕掛けで建柱・設置したのか？ ⑦刻字(碑銘文、彫刻図柄)の内容は何を物語るのか？ ⑧石工や土工の責任者(現場指揮官)は誰だったのか？ ⑨所要資金、建設資金は誰が出したのか(今様のスポンサーは)？ ⑩2011(平成23)年3月11日の東日本大震災でも倒壊しなかった理由は？ ⑪建柱手順と揺れに強い工法とは？・・・。

○ 当月山神社の境内に立ち入り、浮かんで来る思いを拙い短歌にして見た。

✓ 他人のよそびと細事さいじは撥ね退け凛と建つ諸仏と和合月山神社

✓ 上桜田の桜地やししろ山神社に建てん神柱しんばしら太く育てん皆みなの力で



図-47

「上桜田 月山神社」境内の配置全体図（番号付定のもののは石碑・石塔類）

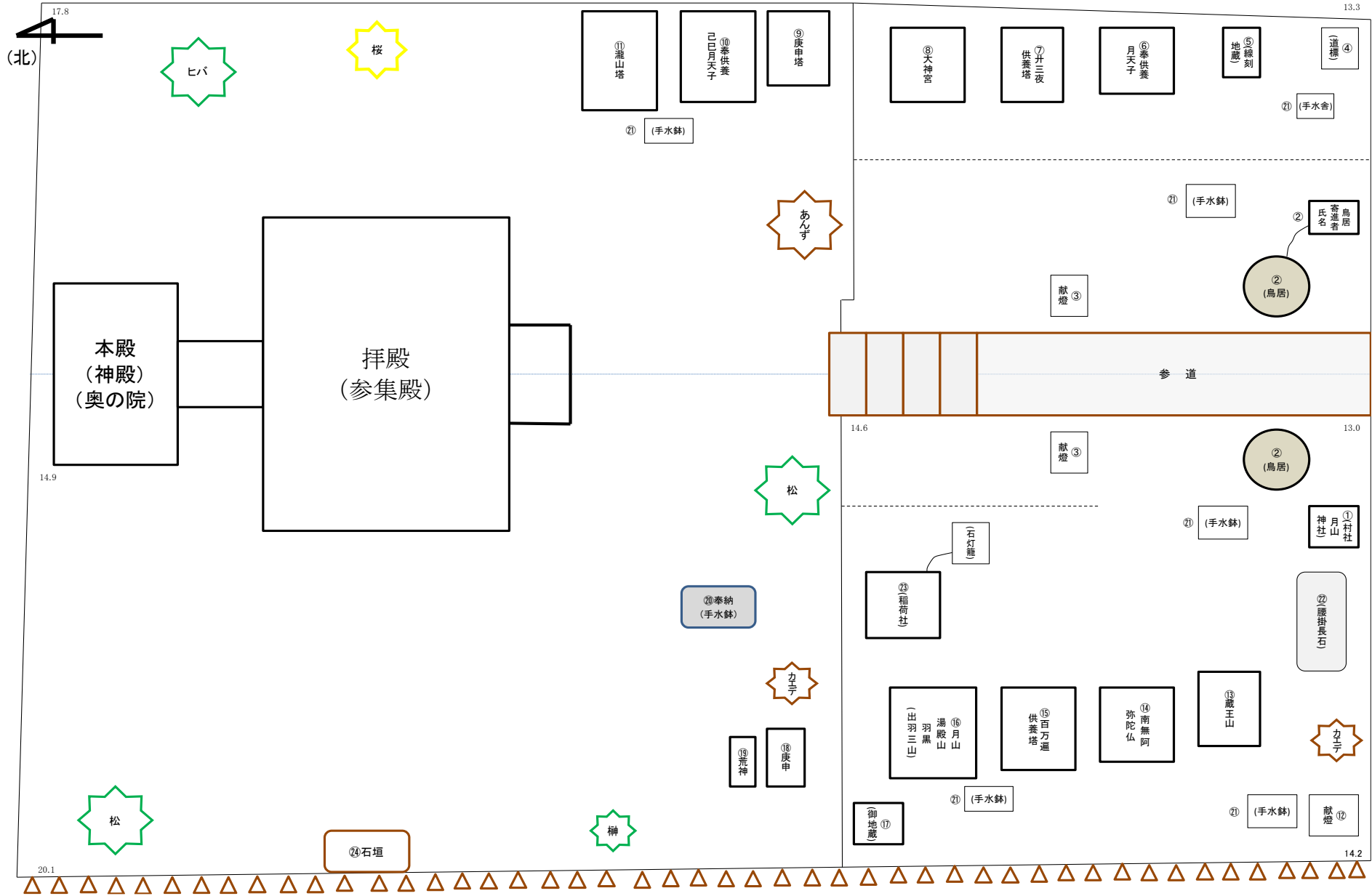


図-48

図-49のように吾が自宅地区（町内会地域）には、神社・お堂の6か所と寺院1か所がある、この7か所全てにおいて神仏習合の実相を見ることが出来る。



図-49

(end)